



各 位

平成 26 年 10 月 29 日

東京都江東区豊洲五丁目 6 番 52 号

株式会社オートバックスセブン

代表取締役 社長執行役員 湧田 節夫

[コード番号 9832 東証第一部]

問い合わせ先 経理・財務部長 平賀 則孝

TEL 03-6219-8829

業績予想の修正に関するお知らせ

最近の業績の動向等を踏まえ、平成 26 年 7 月 31 日に公表しました業績予想を下記のとおり修正いたしましたので、お知らせいたします。

記

1. 平成 27 年 3 月期第 2 四半期累計期間業績予想数値の修正

(1) 平成 27 年 3 月期第 2 四半期累計期間連結業績予想数値の修正 (平成 26 年 4 月 1 日～平成 26 年 9 月 30 日)

	売上高	営業利益	経常利益	四半期純利益	1株当たり 四半期純利益
	百万円	百万円	百万円	百万円	円 銭
前回発表予想 (A)	98,100	1,400	2,400	1,300	14 86
今回修正予想 (B)	98,000	500	1,350	400	4 62
増減額 (B-A)	△100	△900	△1,050	△900	—
増減率 (%)	△1.0	△64.3	△43.8	△69.2	—
(ご参考) 前期第 2 四半期実績 (平成 26 年 3 月期第 2 四半期実績)	103,740	4,464	5,591	2,988	32 59

(2) 平成 27 年 3 月期第 2 四半期累計期間個別業績予想数値の修正 (平成 26 年 4 月 1 日～平成 26 年 9 月 30 日)

	売上高	営業利益	四半期純利益	1株当たり 四半期純利益
	百万円	百万円	百万円	円 銭
前回発表予想 (A)	78,200	3,300	4,000	45 70
今回修正予想 (B)	78,600	3,000	3,600	41 60
増減額 (B-A)	400	△300	△400	—
増減率 (%)	0.5	△9.1	△10.0	—

2. 平成 27 年 3 月期通期業績予想数値の修正

(1) 平成 27 年 3 月期通期連結業績予想数値の修正 (平成 26 年 4 月 1 日～平成 27 年 3 月 31 日)

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益	1株当たり 当期純利益
	百万円	百万円	百万円	百万円	円 銭
前回発表予想 (A)	221,800	11,000	13,000	7,700	88 01
今回修正予想 (B)	216,600	9,000	10,800	6,000	69 35
増減額 (B-A)	△5,200	△2,000	△2,200	△1,700	—
増減率 (%)	△2.3	△18.2	△16.9	△22.1	—
(ご参考) 前期実績 (平成 26 年 3 月期)	231,697	13,944	16,421	9,786	107 71

(2) 平成 27 年 3 月期通期個別業績予想数値の修正 (平成 26 年 4 月 1 日～平成 27 年 3 月 31 日)

	売上高	営業利益	当期純利益	1 株当たり 当期純利益
	百万円	百万円	百万円	円 銭
前回発表予想 (A)	179,000	11,400	9,200	105 12
今回修正予想 (B)	175,800	10,700	8,600	99 37
増減額 (B-A)	△3,200	△700	△600	—
増減率 (%)	△1.8	△6.1	△6.5	—
(ご参考) 前期実績 (平成 26 年 3 月期)	183,758	13,330	9,370	103 10

3. 第 2 四半期累計期間業績予想修正の理由

(連結)

第 1 四半期は消費増税に伴う駆け込み需要の反動が大きく、第 2 四半期は改善傾向にあるものの、消費全般として減速基調であり、自動車関連消費におきましては、新車販売台数の低迷などに伴いカーナビゲーションや車内アクセサリなどの商品需要が落ち込みました。これに対して、店舗売上の増加のために販売促進施策を強化するとともに経費の見直しによる収益の改善に努めたものの、売上高の減少の影響が大きく、第 2 四半期累計期間といたしましては、売上高、営業利益、経常利益、四半期純利益において前回公表した業績予想を下回る見込みとなりました。

(個別)

連結業績と同様、第 1 四半期においては店舗売上の不振に伴い、卸売を中心に売上が減少しました。当社といたしましては、軟調な事業環境の下、店舗売上の増加に繋げるべく価格政策、販売促進に努め、同時に経費の見直しを行うことにより収益の改善に努めましたが、第 2 四半期累計期間といたしましては、営業利益、四半期純利益において前回公表した業績予想を下回る見込みとなりました。

4. 通期業績予想修正の理由

(連結)

事業環境といたしましては、第 3 四半期以降も景気の不透明感や新車販売の低迷などを背景に消費は弱含むと予想し、店舗におけるカー用品などの売上は、期初の計画を下回る見込みであります。これに対して売上総利益率の向上策や管理可能な経費の削減など利益の改善に努めるものの、当社連結グループの通期の売上高、営業利益、経常利益、当期純利益において、前回公表予想を下回る見込みであります。

当社グループといたしましては、短期的な事業環境の変化に柔軟に対応しつつ収益の改善に努めるとともに、中期経営計画の方針に沿って「クルマのワンストップ・サービス」業への転換に向けて、お客様との接点強化を継続し、シェアの拡大を目指して参ります。

(個別)

連結業績と同様、第 2 四半期までの状況を鑑み、期初予想より下方修正し、通期の売上高、営業利益、当期純利益につきましては、期初予想を下回る見込みであります。

なお、配当予想については期初の計画から変更はございません。

※上記の予想は、本資料の発表日現在において入手可能な情報に基づき作成したものであります。実際の業績は、今後様々な要因により当該予想値と異なる結果となる可能性があります。

以 上